

農林大学校だより

sinrei 榛 黎

第75号

令和5年3月17日
発行

群馬県立農林大学校

〒370-3105 群馬県高崎市箕郷町西明屋1005
TEL: 027-371-3244 FAX: 027-371-6968
<http://www.gunma-iaf.ac.jp>

伝統と誇りを胸に
次の100年へ

農林大学校創立100周年記念式典



創立100周年記念式典
(令和4年10月21日)



一歩踏み
出そう！

校長
藤井 俊弘



2年生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、社会人コースの皆さん、農業実践学校専門技術課程の皆さんは1年間お疲れ様でした。そしておめでとうございます。巣立っていく皆さんに校長からエールを送りたいと思います。

『歴史を変えてきたヤツは、勇気を持って前進したヤツだけだ!』。昨年12月に開催されたFIFAワールドカップカタール大会で躍進したSAMURAI BLUE日本代表のキャプテン、吉田麻也選手が試合前のロッカールームでチームメートたちを鼓舞した言葉です。不可能だと思われていた対ドイツ・スペイン戦での勝利は、自分たちを信じて、勇気を持って戦った結果得られた大金星でした。皆さんも感動されたことと思います。皆さんはこれから新しい人生のスタートを切ります。スタートダッシュを決める人、ゆっくり歩き始める人、迷って立ち止まってしまう人、その先には様々な場面が出てくると思います。また、順調なスタートだと思っていたら大きな壁にたち塞がれるケースもあるかもしれません。でもそんな時に大切なことは、勇気を出して一歩踏み出すことです(日本代表もここから始まりました!)。もし、道に迷ったならば、勇気を持って、躊躇せずに仲間や先輩を頼りましょう!もちろん農林大学校の先生も。自分1人の力だけではどうにもならないことは、この世の中に数多くあります。でも仲間を信じて努力すれば、きっと何とかできます。そして、もっともっとコミュニケーション力を身に付けて積極的に生きていけば、皆さんのこれからの人生は明るく楽しいものになるはずです。一歩踏み出した先に現れる新しい風景を、いつの日か校長先生にも見せてください。

新時代を進め!

後援会 会長
小此木俊一



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。農林大学校で過ごした2年間では、それぞれ多くの学びと経験を皆さんはなされたことと思います。

皆さんが入学した頃は、新型コロナウイルスの影響で人同士が接触して行う様々な事が難しくなってしまう、逆に人同士が接触しなくても済むように様々な事のデジタル化が世の中で急激に進みました。皆さんが農林大学校で学んでいた農業の分野でも同様に急激なデジタル化が進んできていますが、デジタル化がどんなに進んでも元になっているのは、これまでの基本的な知識や先人たちの知恵なのです。それらの基本的な知識や先人たちの知恵についても、農林大学校で皆さんは多くのことを学ばれてきました。このことはデジタル化が進む新たな時代の中で皆さんの大きな力になると思います。でも長い人生の中では、色々なことが起こるかも知れません。そんな時は、2年間ともに農林大学校で過ごした同窓生や卒業生との出会いが、困難を乗り越えるための力になると思います。

さあ、これからの人生が全力で謳歌できる皆さんの新時代へのスタートです。最後になりますが、農林大学校の教職員および関係者の方々の2年間に及ぶ熱心なご指導に感謝致しますとともに、農林大学校の益々の繁栄、そして皆さんのご多幸をお祈りし、卒業生保護者を代表しての挨拶とさせていただきます。

卒業おめでとう



野菜コース



花き・果樹コース



酪農肉牛コース



農と食のビジネスコース



森林コース



社会人コース

保護者からの一言



卒業おめでとう

原島 早苗

入学前から寮生活に大きな不安を抱いていました。いざ入学・入寮してみると、帰宅するたび楽しそうに学校生活や実習、寮での出来事を話してくれ、とても安心しました。

仲間と協力し、助け合い、学んだ2年間は、楽しく充実したものだったと感じ、この学校で学べて良かったと思いました。早朝、暗いうちからの作業や炎天下での作業など、大変なこともたくさんあったでしょう。これから辛く大変な思いをしても、今まで身につけた知識や経験を役立て、未来へと力強く羽ばたいてください。

2年間、ご指導頂きました先生方や関係者の皆さんには心より感謝申し上げます。



卒業おめでとうございます

島田 宏充

新型コロナウイルスの真っ只中での入校。何をすることもコロナと向き合わなければならず、様々な制約がある中での生活はもどかしかったと思います。このような中でも皆さんは、行動を制限しながらたくましく成長されました。この2年間は、まさしく時代の変革期でした。農業では食料安全保障の観点から自給率を考えることや林業では環境問題との関係など。これらは、ここ農林大学校で学んだことと深く関わりがあり、必ずやこれからの歩みの中で糧となるでしょう。そして、一緒に寮生活を送り、ともに学んだ仲間は、一生の友になったと思います。

最後にイギリスの哲学者の言葉を贈ります。「勇気を出さないとチャンスを逃す」皆さんも勇気をもって行動し、チャンスをつかみ取ってください。これからの活躍を期待しています。

学校生活の思い出



野菜コース2年
池田 一樹

私はこの2年間で多くのことを学び、様々な思い出を作ることができました。その中でも一番の思い出は多くの仲間に出会えたことです。入校当初は、初めて見る顔ばかりで、寮での生活も不安でいっぱいでした。そんな時、同じコースの仲間が気軽に声をかけてくれて、不安だった気持ちが一瞬で吹き飛びました。学校生活や実習では毎日くだらない話をしたり、仲間とはしゃぎながらも互いを助け合い、熱心に取り組んできました。

この文章を書きながら、2年間という短い間に、多くの仲間や先生方に支えられながらここまで来れたのだと改めて実感しました。懐かしい思い出や楽しかったことが蘇り、胸がいっぱいになりました。卒業後は一人ひとり違う道を進むことになり、大変なこともあると思います。そんな時はこの場所で皆さんと出会い、互いに励まし合った日々を思い出してください。2年間、ありがとうございました。



花き・果樹コース2年
犬木 美咲

私は農林大学校で花の栽培やフラワーアレンジメントについて学びました。花の栽培管理では、用土づくりから出荷までの一連の作業を学び、お客様の喜ぶ姿を間近で感じる事ができた時は、この上ない達成感を得ることができました。温室の管理や植物の灌水を自分たちで考えながら行った当番業務では、農業の大変さを痛感することができ、仲間と協力することの大切さを学ぶこともできました。フラワーアレンジメントでは、規定サイズの作品を時間内で作成することの難しさや、自分の想いを花材で表現することの楽しさを学ぶことができました。また寮生活では、初めは慣れない環境で大変なこともありましたが、同室の仲間と協力し徐々に楽しく過ごせるようになりました。卒業後は、それぞれの道へ進み、様々な壁に直面すると思いますが、農林大学校で培ってきた経験を活かし、乗り越えていこうと思います。



酪農肉牛コース2年
深澤 拓真

農林大学校での2年間は自分を大きく成長させてくれました。酪農肉牛コースに入校した私は、ウシについてありとあらゆることを学びました。初めは聞いたことのない専門用語まみれの教科書に、朝4時半からの当番業務など、大変なことばかりでした。加えて、自分よりも早く作業内容を覚えるクラスメイトに劣等感を覚えていました。しかし、その分、授業の内容が分かった時や、それを実習で活かした時の達成感は、何ものにも代えがたく、自分が成長していく姿を実感できました。それを繰り返していくうちに、クラスメイトに対して、劣等感よりも「早く追いつきたい」という前向きな気持ちが強くなっていきました。

学校生活を通じて、畜産に関わる人間として大きく成長できたと思います。ともに切磋琢磨したクラスメイトたちに感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。



社会人コース
石坂 邦洋

農家に生まれながら、今まで「農業」と言うものにほとんど触れてこなかった私にとって、農林大学校での1年の学びは、今まで経験したことのない新鮮さと楽しさがありました。学んだ野菜や農薬、農業機械の知識をほ場に出て実際に体験する。本来、学業とは実践で活かすことに本当の意義があるのでしょうか、農業ほど学びと実践が密接に繋がっているものはないと感じました。授業で知ったことに加え、自分がより知りたい、と思えばさらに学びを深めることができ、栽培や農家経営に活かせるということが、農業を学ぶ何よりの魅力だと感じました。1年間という短い期間の中で、濃密な農業の学びと、若い農林大学校生のエネルギーな活力に触れられたことは、自分の人生の中でとても良い経験となりました。皆さん、ありがとうございました。



農と食のビジネス
コース2年
岩井 亮輔

私は始めは寮生活や学習面での不安でいっぱいでしたが、振り返ってみればすぐに溶け込むことができ、2年経った今では長いようすごく短く感じた学校生活でした。

私の学校生活の1番の思い出は榛名登山です。その理由は、2年連続で優勝することができたからです。榛名登山は、農林大学校から榛名湖までを走り抜けるマラソン大会のような学校行事です。何事にも負けることが大嫌いな私は、緊張やプレッシャーを楽しみながら、持ち前の体力と粘り強さで精一杯走り続けました。次々と追い抜き、先頭を独走する快感や周りの景色、ゴールした時の達成感など、様々な感情が今でも心の中に残っています。

卒業後は、榛名登山を駆け抜けた時のように自分の長所を活かし、群馬県の農業のトップランナーになりたいと思います！



森林コース2年
吉田 萌真

私たちは新型コロナウイルスが流行する中で入校し、農林大学校での2年間が始まりました。入校前は寮生活がとても不安で、出身県を離れて群馬でやってくれるのかと何度も悩みましたが、今では寮を自分の家のように感じています。そう思えたのは、部屋で一緒に過ごした友人の存在が大きく、毎日が修学旅行のようで、とても楽しく濃い学校生活でした。また、森林コースは女子が私1人でしたが、実習や校外学習を通してクラスメイトとの距離も段々と縮まり、大変な毎日を乗り越えることができました。

入校初日は早く卒業したいと思っていましたが、クラスメイトや寮の友人に恵まれ、何気ない1日がとても楽しく、あっという間でした。これからの人生、辛いことがあっても農林大学校で過ごした日々を糧に、卒業生として恥じないよう頑張っていきたいと思います。2年間、素敵な時間と貴重な体験をありがとうございました。

在校生からのメッセージ



先輩から教えてもらったこと
野菜コース1年 藤澤 怜也

ご卒業される先輩方、この度は誠にありがとうございます。私たちが農林大学校に入校し、新しい生活を始めるという期待と不安の中で、先輩方は実習や学校行事から普段の生活のことまで細かく教えてくださいました。特に、私は非農家の出身で、高校の実習で扱った作物以外の収穫や調製の方法は分かりませんでした。困ったら先輩方にお聞きして、教えてもらうという場面が数多くありました。その度に先輩方は1つ1つ丁寧に優しく教えてくださいました。おかげで今では、先輩方のように迷いなく実習を行うことができるようになりました。先輩方が卒業されるというのは、寂しい気持ちもありますが、私たちは先輩方に教えてもらったことを後輩へと伝えていき、先輩方が社会に出て活躍できるよう応援しております。1年間、本当にありがとうございました。



一番の思い出は榛の木祭
花き・果樹コース1年 伊藤 大翔

2年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。実習や当番業務、学校行事など様々な場面で先輩方には大変お世話になりました。入校して間もない頃、優しく声をかけてくださり、右も左もわからない私たちをフォローしてくれました。一番の思い出は榛の木祭です。果樹専攻では、フルーツ飴とリンゴジュースを試行錯誤しながら作ったこと、特に橋本先輩の足跡事件は今でも深く心と床に刻まれています。花き専攻でも、チョコバナナを作りながら先輩方と楽しく会話ができてうれしかったです。4月から私たちも2年生になります。先輩方の実習や課題研究に一生懸命に取り組む姿勢をしっかり受け継ぎます。先輩方は社会人です。たくさんの試練があると思いますが、農林大学校での経験を活かして頑張ってください。差し入れも楽しみにしています。最後になりますが、先輩方のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



先輩の背中を追い続ける
酪農肉牛コース1年 小林 友那

2年生の皆さん、この度はご卒業おめでとうございます。先輩方には、日々の実習だけでなく、学校行事やプライベートなど様々な場面で大変お世話になりました。初めての当番業務の際、一から丁寧に教えてくださったり、分からないことも親切にご指導頂いたおかげで、今では自分たちでできることも多くなりました。今後は先輩方のように1つ1つの作業を正確に効率よく行い、広い視野を持てるように頑張りたいです。また、畜産に対する熱意や、ウシと一生懸命に向き合う先輩方の背中を追い続け、今度入学してくる新1年生に頼られるような上級生になるため、努力していきたいです。1年という短い間でしたが、本当にありがとうございました。最後に、先輩方の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



笑顔と元気で恩返しを
農と食のビジネスコース1年 新井 雅斗

ご卒業おめでとうございます。私たちは先輩方に様々なことを学ばせて頂きました。実習や課題研究のことからプライベートのことまで。とくに寮生活は、ほとんどの人が経験したことがなく、最初の頃は慣れないことだらけでとても心配でした。入寮してみると、先輩方が気軽に話しかけてくれて、私たちは寮生活を楽しく過ごすことができ、充実した毎日を送ることができました。これから私たちにも後輩ができます。私たちも先輩方のように頼られる存在になれたら良いな、と思っております。先輩方も卒業、就職、進学したら初めてのことでとても心配かもしれません。その時はぜひ農林大学校に遊びにきてください！私たちが笑顔と元気で恩返しをさせてもらいたいと思います。今まで本当にありがとうございました。



熱意と先を見通す力
森林コース1年 中根 颯己

2年生の皆さん、この度はご卒業おめでとうございます。短い間でしたが、本当にありがとうございました。森林コースでは、新型コロナウイルスの影響で、先輩方と合同で実習や作業をする機会が少なく、残念な1年となりました。その中でも、課題研究発表会がとても記憶に残っています。カシノナガキクイムシの防除の研究や、単木柵の研究、ヒルの研究、センサーカメラを使ったシカの研究など、様々な視点で研究活動が行われ、大変勉強になりました。先輩方の研究に向かう姿勢や態度についても見習うべきところが多かったので、私も熱意と先を見通す力をもって課題研究を進めていけるよう、努力していきたいです。最後に、先輩方の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。1年間ありがとうございました。

農林大学の一年

6月



イオン販売会
花き・果樹コース1年 錦織 花菜

イオンスタイル高崎における販売学習では、私たち学生が日頃の実習で育てた様々な農産物や加工品を販売しました。開店の準備をしている時からお客様が並んでおり、その中には常連の方もいて、農林大学が築いてきた地域との信頼関係を実感しました。私たち花き・果樹コースでは、シクラメンを中心にポインセチアやバラの花束、リンゴなどを販売し、用意した花と果物を完売することができました。この花や果物は、私たち学生が朝早くから管理に励み、実習を通じて丹精を込めて育てたものです。それらが多くのお客様の手に渡り、うれしさとともに大きな達成感を味わうことができました。また、店内でのチラシ配布では多くのお客様と接し、はじめは緊張で声をかけることができませんでしたが、徐々に緊張がほぐれ、チラシを配りながら会話ができるようになりました。販売実習で学んだことを今後の学校生活や将来に活かしたいと思います。

9月



榛名登山
農と食のビジネスコース1年 上田 優希

私たちが農林大学校に入校して最初に行う学校行事、榛名登山。しかし、新型コロナウイルスの脅威が止まらず、今年は延期になってしまいました。その後も延期が相次いだ中、9月の暑さが和らいできた快晴の日に、無事開催することができました。農林大学校から榛名湖までの13km、平坦な道はなく常に登り下りがあり、とても疲れました。特に後半は登り坂が多く、傾斜が激しい場所が多かったため、息切れして足も痛かった中、歩き続けました。とても大変でしたが、自分のペースで歩いて、楽しくゴールすることができました。ゴールでは全員が笑顔でした。閉会式では抽選でラッキー賞を頂くことができ、とてもうれしかったです。榛名登山を通して、授業に必要な体力をつけることができました。来年はもっと体力をつけて、笑顔でゴールできるように頑張ります。

11月



榛の木祭
野菜コース1年 横坂 拓真

榛の木祭が11月12日・13日に盛大に開催され、本年度のテーマは「一瞬の秋、一生の記憶」でした。3年ぶりの一般公開となったため、当日は数多くの来場者で大変な賑わいをみせました。1日目は一般来場者向けの販売会やイベントなどを行いました。販売会のために用意していた野菜や花や加工品は、見る見るうちに売り切れていきました。イベントでは、チェンソーデモや餅つき、子牛とのふれあい体験などがあり、どれも大好評でした。2日目は学生向けのステージイベントが行われました。軽音楽部の演奏から始まり、「少年の主張」や女装コンテスト、クイズ、ビンゴなど、大いに盛り上がりました。榛の木祭は初めての経験で、不安になることもありましたが、当日だけではなく事前準備も楽しく行うことができました。来年度も、学生も来場者も楽しめるよう、頑張りたいと思います。

12月



代表課題研究発表会
酪農肉牛コース2年 比留間 瑠海

12月15日、群馬会館のホールで代表課題研究発表会が行われました。自ら課題を決め、1年間研究を行った成果を、各コースから選ばれた代表学生が発表します。発表内容は、作物の栽培に関する研究から、実家の農業経営や地域振興に関する研究まで、コースごとと特色のある幅広いものでした。私は日ごろから畜産について勉強しているので、全く知らない分野の発表を見ることができ、面白くとても勉強になりました。私はウシの繁殖に関する研究を行いました。研究を行う中で友人や先生、県内の農家や畜産試験場の職員の皆さんなど、たくさんの方々にご協力して頂きました。私1人の力では成しえなかった研究をコース代表として発表できたことは、とてもうれしく誇りに思います。今後、後輩たちの課題研究が始まるので、しっかり成果が出せるように頑張りたいです。



寮生活の思い出
森林コース2年 岡田 拓朗

2年間の寮生活はあっという間に過ぎ去ってしまいました。「あー俺、2年間みんなと一緒にこの寮で暮らしたんだなあー」と思うと、寮を離れるのが少し寂しい気がします。寮生活が始まってすぐは不安でした。しかし、1週間もしないうちに寮生と打ち解け、不安は全くななくなっていました。仲間と寝食を共にするのは、とても貴重な経験です。四六時中だれかと一緒に過ごすという経験は、今までの私にはありませんでした。しかし、いざ一緒に生活してみると、毎日が楽しく、農林大学校の仲間と過ごす寮生活はとても充実していました。トランプや麻雀を楽しみ、他愛のない会話に花が咲きました。私が寮の設備で特に驚いたのは、浴場です。広々とした浴槽に毎日浸かれたのは驚沢だったかと、今振り返ってみるとそう思います。これから入寮される皆さん、充実した寮生活を楽しんでください。

職員からの贈る言葉



楽しむ人生、出会い、何事にもチャレンジ精神を

社会人コース長
福田 博文

ご卒業おめでとうございます。皆さんは、予期していない新型コロナウイルスが流行する中での入学・卒業という経験をされました。想像もできなかったこの大変な経験の中で何を学ぶことができたでしょうか。大変な経験はマイナス思考ではなく、プラス思考になることが大いにあります。きっと社会に出て役立つことでしょう。

これから社会に向けて歩み出す学生の皆さんへ贈る言葉として、
①楽しむ人生にして下さい。楽しむことが長続きをする秘訣です。
②多くの人の出会いを作ってください。いかに多くの人と出会うかが人生の宝になります。
③何事にも挑戦して下さい。年齢は関係ありません。
④初心を忘るべからず。人生の道に迷った時は、初心に戻って謙虚な気持ちになって下さい。皆さんの将来に大いに期待しています。



心がけて欲しいこと

森林コース長
清水 昌福

ご卒業おめでとうございます。農林大学校での2年間はどうか。寮生活、実習、課題研究、榛名登山、様々なことを経験し楽しかった学校生活も卒業です。

皆さんがこれから社会で活躍するにあたり、心がけて欲しいことがあります。それは「ありがとう」と言う感謝の言葉です。学生時代は先生、友人、家族が皆さんを当たり前のように支えてくれました。社会に出ると少しずつ責任あることを任されていきます。戸惑うことや不安なことに直面することもあるでしょう。その時、周りには必ず助けてくれる人がいるはず。やってくれて当たり前」「恩恵を受けて当たり前」という考えではなく、ぜひ「ありがとう」と言葉に出して、心をこめて感謝を伝えてほしいと思います。皆さんは、1人ではありません。心から応援してくれる人たちがいることを忘れないで下さい。

自治会役員の紹介

本年度も新型コロナウイルスの影響を受けましたが、それでも以前の日常が戻りつつあると感じています。自治会役員一同、活気あふれる学校になるよう、全力を尽くしてまいります。



- 会長：石黒 青 (森林コース)
- 副会長：藤澤 怜也 (野菜コース)
- 副会長：山口 隆輔 (野菜コース)
- 副会長：宮木 豪太 (農と食のビジネスコース)
- 会計：谷津 大樹 (酪農肉牛コース)
- 書記：中嶋 すみれ (花き・果樹コース)
- 書記：幕 翔太 (農と食のビジネスコース)

各種発表会等の出場者・受賞者の紹介

●令和4年度関東ブロック農業大学校等実績発表会

- 原澤 里音 農と食のビジネスコース2年 (3位入賞・全国発表会出場)
- 比留間 瑠海 酪農肉牛コース2年
- 小林 友那 酪農肉牛コース1年

●令和4年度全国農業大学校等プロジェクト発表会

- 原澤 里音 農と食のビジネスコース2年 (優良賞受賞)



●令和4年度関東森林局森林・林業技術等交流発表会

- 町田 蒼哉 森林コース2年 (審査員奨励賞受賞)

●第33回ヤンマー学生懸賞論文・作文

- 前原 涼介 野菜コース1年 (奨励賞受賞)
- 箕輪 将直 野菜コース1年 (奨励賞受賞)

●令和4年ぐんま森林活動アイデアコンテスト

- 中根 颯己 森林コース1年 (入賞)

研修部

ぐんま農業実践学校

農林大学校研修部では、群馬県内で就農を志す方を対象に「ぐんま農業実践学校」を開校しています。様々なニーズに合わせた課程・コースがあり、実習を中心とした研修を通じて、農業経営に必要な知識と作物の栽培技術を学びます。

令和4年度は延べ120名以上の方が入学し、20代から70代までの幅広い年代の研修生が、実践的なカリキュラムのなか、お互いに協力し合い、新たな農業の担い手を目指して学びました。研修で得た農業に関する知識や技術、そしてここで出会った仲間との縁を今後も大切にして頂き、修了者の皆さんが、各地域の担い手として本県農業の活性化に向け、活躍されることを期待します。



令和4年度「ぐんま農業実践学校」修了者

課程・コース		修了者数(人)
野菜専門技術課程		19
野菜基礎技術課程	春夏野菜平日コース	19
	春夏野菜日曜コース	21
	秋冬野菜平日コース	18
	秋冬野菜日曜コース	21
推進品目課程	露地ナスコース	5
	秋冬ネギコース	3
トラクター操作講座		11
農業体験講座		6

研修生の言葉



ぐんま農業実践学校
野菜専門技術課程
阿左見 長嗣

1年間、多くの支援を受けて貴重な時間を実践学校での学びに費やすことができました。私は以前から農家を志望しており、念願叶って就農すること、実践学校での研修も受けられることになりました。

本年度は新型コロナウイルスの波が繰り返す中で、の学校生活となり、「榛名登山」の延期や「榛の木祭」の小規模開催は、少々の心残りとなりました。先日の「チコちゃんに叱られる(NHK)」では、大人になると時間が早く過ぎるのはトクメキがなくなったから、とのこと。今年は初めての経験が多く、私にとってはとても長い1年となりました。

私が講義・実習において印象に残った言葉は「苗半作(苗の出来で作柄の半分は決まる)」と「IPM(総合的病害虫雑草管理)」です。私自身作物を育てていて、良くない苗も育てはくれるのですが、出来栄は良い苗に到底及ばないです。また、病害虫対策を行う上での要は、畑(作物、土、施設)を注意深く見て、病気は予防、害虫は早期発見に努めることを学びました。

この1年、作物が鳥にやられたり、病気にやられたりと貴重な失敗を経験できました。この研修で学んだ農業経営に必要な知識・技術を駆使し、近い将来、作物を作れるのは当たり前、付加価値のある商品を届けられる農家として、人間として成功し、この選択が正しいことを証明して見せたいと思います。

農業機械研修

本校では、農作業機械に関する研修のひとつとして、農林大学校生を対象とした大型特殊免許(農耕車に限る)の取得に関する「大型トラクター基礎研修」を実施しています。研修は、校内に設置されている運転練習コースにおいて、大型トラクターの基本操作と安全な道路走行を学び、研修最終日に実施される運転免許試験に合格すると免許取得となります。また、研修カリキュラムには、トラクターにおける作業機の脱着・調整およびロータリー耕等の実践的な内容も取り入れています。

令和4年度も多くの学生が本研修を修了し、運転免許の取得とトラクター作業の基本操作を学びました。この他、けん引免許(農耕車に限る)を取得する「大型トラクターけん引研修」や農業機械の安全利用を学ぶ「農業機械安全利用研修」といった様々な研修を実施しています。各研修を通じて免許や資格の取得、農作業機械の安全な取扱いを学習しています。



令和4年度「大型トラクター研修」実績

研修名	実施回数(回)	延べ受講者数(人)	延べ免許取得者数(人)
大型トラクター基礎研修	7	76	76
大型トラクターけん引研修	4	22	22

※農林大学校生、実践学校生のみの実績